

ユーザ企業の IT 投資実態に関する調査

～ SaaS の普及における障壁とは～

➡ 調査要綱

矢野経済研究所では、国内のユーザ企業 565 社を対象にアンケートを実施し、IT 投資に関する動向を取りまとめた。

1. 調査期間：2007 年 12 月～2008 年 1 月
2. 調査対象：国内企業（有効回答数 565 社）
3. 調査方法：郵送によるアンケート調査

➡ 調査結果サマリー

運用・保守への投資が増加する見込み

「IT 投資の構成比」の質問では、「ハード」、「ソフト」の構成比が 2007～2009 年度にかけて減少するのに対して、「運用・保守」、「運用・保守アウトソーシング」などのサービス部分の構成比が、増加していく見込みとなった。

SaaS (Software as a Service) への大きな投資は、数年内は期待薄

「IT 投資の構成比」の回答では、「SaaS」の構成比も増加する見込みであったが、2009 年度でも 1.5% の構成比に留まる結果となった。「SaaS の利用意向」に関する質問を実施したが、68.8% が「なし」と回答した。

SaaS を利用しない理由は「互換性 / システム間移行が難しそうだから」

「なし」の回答者に、「SaaS を理由しない理由」の質問を実施したが、「互換性 / システム間移行が難しそうだから」の回答が最も多く、次に「カスタマイズ性に乏しそうだから」、「操作性（使い勝手）に懸念」と続いた。

➡ 資料体裁

資料名：「ユーザ企業の IT 投資実態と予測 2007-2009」

発刊日：2008 年 2 月 29 日、体裁：A4 判：256 頁

定 価：157,500 円（本体価格 150,000 円 消費税 7,500 円）

株式会社 矢野経済研究所

所在地：東京都中野区本町2-46-2 代表取締役社長：水越 孝

設 立：1958年3月 年間レポート発刊：約250タイトル URL：<http://www.yano.co.jp/>

本件に関するお問合せ先（当社HPからも承っております <http://www.yano.co.jp/>）
（株）矢野経済研究所 管理本部 広報室 TEL：03-5371-6912 E-mail:press@yano.co.jp

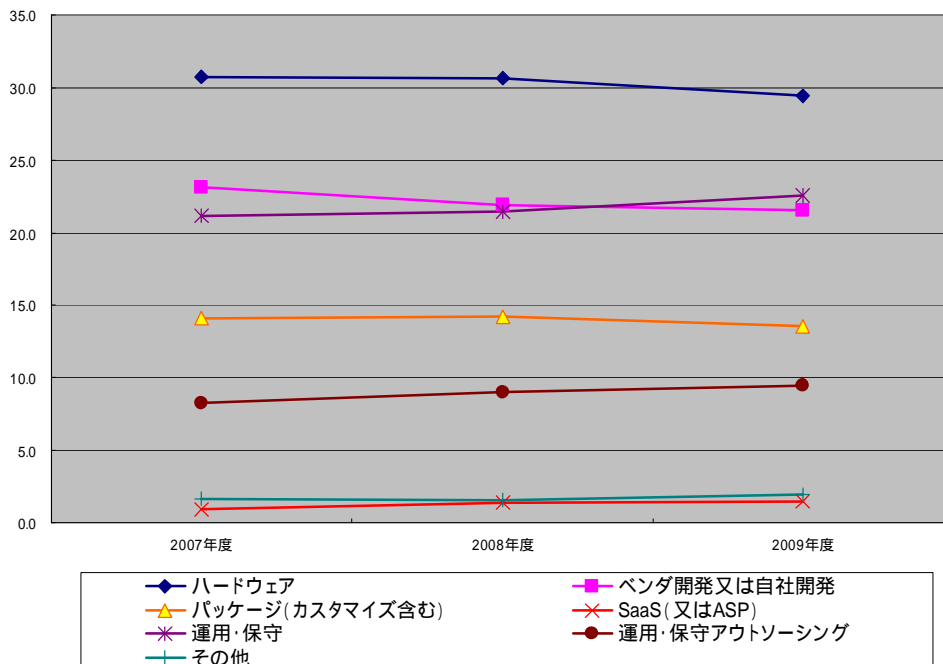
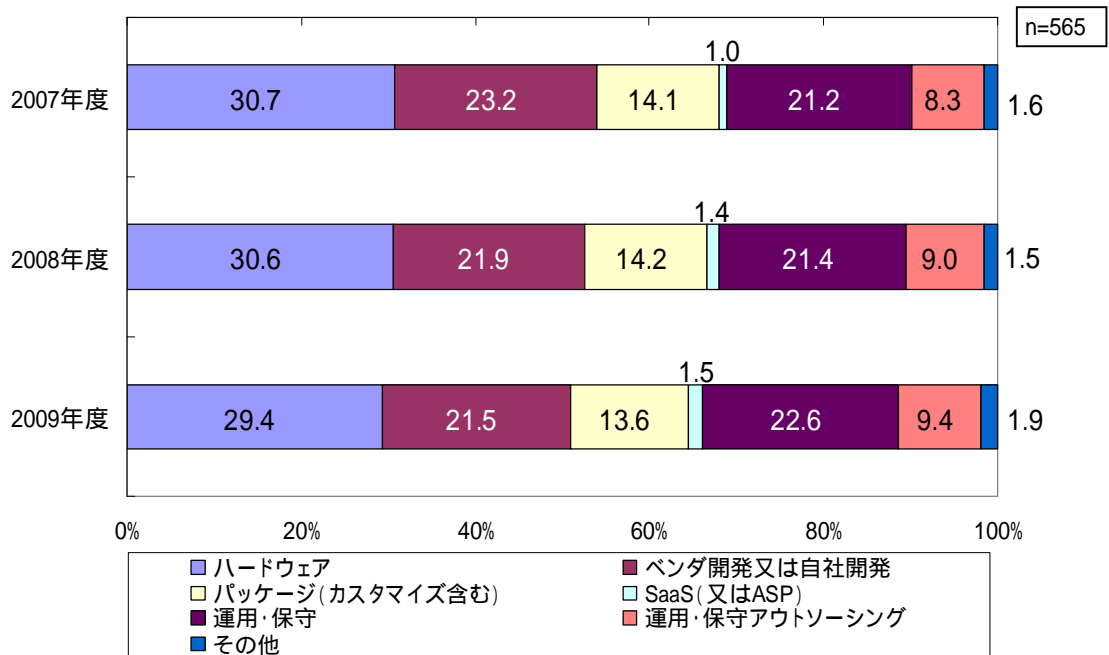
調査内容の解説

IT投資の構成比推移(2007～2009年度)

図表 1 IT投資の構成比推移

(単位：%)

年度	ハード	ソフト			サービス		その他	合計
	ハードウェア	ベンダ開発 又は 自社開発	パッケージ (カスタマイズ含む)	SaaS (又は ASP)	運用 保守	運用保守 アウト ソーシング	その他	
2007年度	30.7	23.2	14.1	1.0	21.2	8.3	1.6	100.0
2008年度	30.6	21.9	14.2	1.4	21.4	9.0	1.5	100.0
2009年度	29.4	21.5	13.6	1.5	22.6	9.4	1.9	100.0

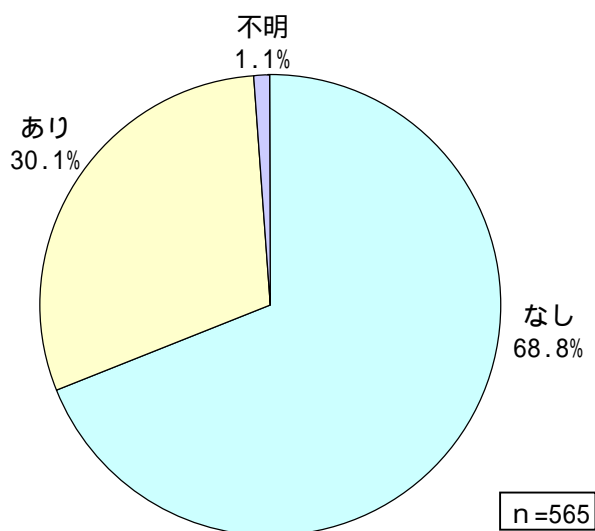


IT 投資の構成比推移では、「ハードウェア」、「ベンダ開発又は自社開発」、「パッケージ（カスタマイズ含む）」の構成比が 2009 年度にかけて減少するのに対して、「運用・保守」、「運用・保守アウトソーシング」の構成比が増加する見込みとなった。これは、日本版 SOX 法や個人情報保護法などの影響により、企業の情報管理の重要性が増し、システムの運用部分が重視されるようになってきたことが要因と思われる。SI/IT ベンダ側もストック型ビジネスである運用アウトソーシングに注力しているため、運用サービス市場は拡大していくことが予想される。なお、「SaaS」の構成比も増加していく見込みであるが、2009 年度でも 1.5%と低い構成比に留まる見込みとなった。

◆ 今後 3 年間の「SaaS の利用意向」の有無

図表 2 今後 3 年間の SaaS の利用意向

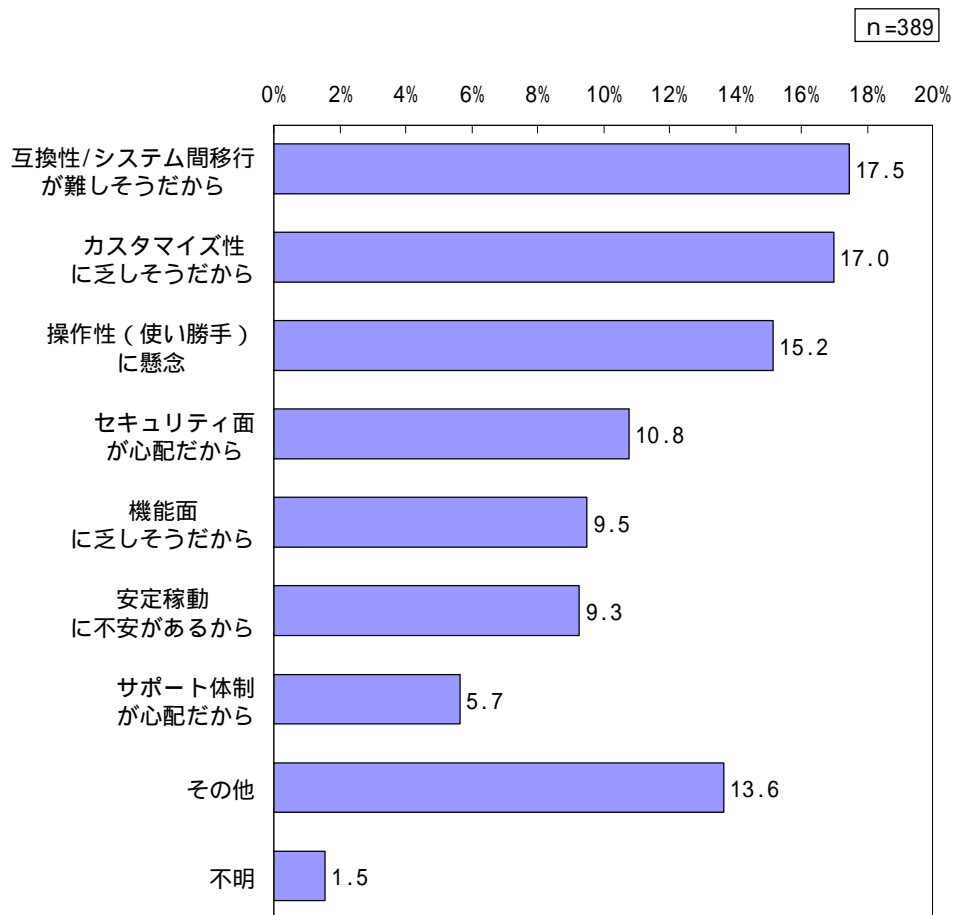
利用意向	回答数	%
なし	389	68.8
あり	170	30.1
不明	6	1.1
全体	565	100.0



➡ 「SaaS を利用しない理由」

図表 3 SaaS を利用しない理由

理由	回答数	%
互換性/システム間移行が難しそうだから	68	17.5
カスタマイズ性に乏しそうだから	66	17.0
操作性（使い勝手）に懸念	59	15.2
セキュリティ面が心配だから	42	10.8
機能面に乏しそうだから	37	9.5
安定稼動に不安があるから	36	9.3
サポート体制が心配だから	22	5.7
その他	53	13.6
不明	6	1.5
全体	389	100.0



IT 業界において「SaaS」のキーワードは、非常に良く聞かれるようになった。しかしながら現段階では、SaaS ビジネスで成功している SI/IT ベンダはまだ数える程しかなく、普及はこれからと思われる。そのため、今回のアンケートでは、ユーザの意識を知るために「SaaS」に関する質問を実施した。

まずユーザの SaaS への投資予定に関しては、「IT 投資の構成比」の回答で、2009 年度構成比見込みが 1.5%に留まったことなどから、今後数年間は大きな投資が見込みづらい結果となった。また「SaaS の利用意向」に関する質問でも「なし」の回答が 68.8%と「あり」30.1%の 2 倍以上あった。

利用意向を「あり」としたのは、大企業が多く、逆に中小企業では「なし」の構成比が高かった。「あり」の 30.1%を多いと捉えられないこともないが、これは、大企業の方が新しいサービスである SaaS に対する関心が高く、それが数字になって表れたものだと思う。

SaaS の導入に当たって、どのような障壁があるかを知るために、「SaaS を利用しない理由」を質問したところ、最も多かった回答は「互換性 / システム間移行が難しそうだから」17.5%であり、次に「カスタマイズ性に乏しそうだから」17.0%、「操作性（使い勝手）に懸念」15.2%と続いた。

「互換性 / システム間移行が難しそうだから」の回答が最も多かったことからわかるように、SaaS の導入に当たって最も障壁になっているのは、既存システムとの関係であろう。既にあるシステムの代替品としては、能力がまだ不足していると考えられているようだ。また既存システムと連携させるにしても共通プラットフォームを利用する SaaS の互換性に懸念を持っているようだ。

次に「カスタマイズ性に乏しそうだから」、「操作性（使い勝手）に懸念」が上位にきたことからわかるように、ある程度のカスタマイズが可能だとしても、他社と共通のインターフェイスで利用せざるを得ないなど、自社の状況に合わせて使用できない可能性を懸念しているようだ。

今後、SaaS を普及させていくためには、ユーザが抱いている互換性やカスタマイズ性などへの懸念を払拭するための、技術的及び営業的な努力が必要になるだろう。

* 掲載した表やグラフは、四捨五入の関係で、合計値が合わないことがあります。